

小学校の部 特選

一茶まつり大賞

足立区立長門小 四年 美汐さん

太陽が生きる生きるとアブラゼミ

土から出てきて一週間ほどしか生きられない蝉。その一途な声に太陽が命のエネルギーを降り注ぎながらエールを送っています。

東京都知事賞

足立区立湊江小 二年 夢さん

ひまわりの黄色ひまわりだけの色

たんぽぽも黄色、いちょうのもみじも黄色。福寿草も黄色。さまざまな黄色があるけれど、ひまわりはひまわりにしかない黄色で輝きます。

東京都議会議長賞

八峰町立峰浜小 六年 那望さん

コロナで休み桜の奥に照る学校

深刻なコロナウイルス禍。桜が咲く季節になっても休校が続きます。学校も寂しそうに子供たちが戻ってくるのを待っています。

足立区長賞

葛飾区立幸田小 四年 柊司さん

海ふんで入道雲が追ってくる

水平線のむこうに立ち上がった入道雲。いつのまにか大きくなりました。もしかしたら本物の巨人となって歩き出すかもしれないと想像しました。

足立区教育委員会賞

伊賀市立友生小 六年 咲月さん

曾祖母の手をひく祖父のうでに汗

ひいお祖母さんはお祖父さんのお母さんです。二人ともそれぞれ年老いたけれど、今も仲の良い親子です。ひいお祖母さんを思いやるお祖父さんの腕に汗が光ります。

仙台市立南小泉小 六年 聡悟さん

じっとりと令和二年の夏マスク

昨年末から世界的な流行が始まったコロナウイルス感染症。どんどん広がるばかりの不安感が、汗ばむマスクから伝わってきます。

八峰町立峰浜小 五年 海輝さん

休みにはプールで銀河まで泳ぐ

夏休みの夜のプール。人も多くありません。プールはたぶん天の川へと続いていると想像した
のでしょうか。このまま泳ぎ続けたなら星空の中へ行けそうです。

藤岡市立平井小 四年 奏斗さん

気づくかなマスクすがたの墓参り

今年はコロナウイルス対策のためマスクをしたままのお墓参りとなってしまいました。去年より
も背も高くなったし、お墓に眠る人は自分とわかってくれるか、心配になりました。

玉川学園小学部 一年 はなのさん

はなびからちいさいはくしゅきこえたよ

大きな花火が次々と開きます。思わず、家族みんなで大きな拍手。すると消えて終わったと
思った夜空に最後に小さな花火。それを花火自身の拍手と受け止めました。

足立区立梅島小 四年 ももこさん

蚊のやつめわたしのうまさなぜ分かる

家族全員でのキャンプでしょうか。なぜか、蚊は作者だけ刺すのです。迷惑なことですが、ユー
モアたっぷりに表現しました。

足立区立西新井第二小 五年 結人さん

カブトムシ月に飛び立つ羽の音

たまたまライトに寄ってきたカブトムシでしょう。次の瞬間、空へ飛び去りました。飛び立つ音も聞こえてきそうです。

高岡市立伏木小 二年 玄基さん

ひみつきちみみたいにせんたくものがゆれる

庭先に揺れている洗濯物でしょうか。その様子に以前作った秘密基地に立てた旗を思い出したのです。洗濯物も楽しげに揺れています。

西尾市立鶴城小 五年 史埜さん

弟をおぶって帰るはかまいり

家族揃ってのお墓参り。行きは元気よかった弟が疲れて帰りはお兄さんの背中の上。仲のよい兄弟の姿が浮かびます。

伊賀市立成和西小 六年 渉椰さん

スイカ食べ志村けんさん思い出す

すいかの早食いは亡くなった志村けんさんの得意技でした。今年の夏、すいかを食べていたら志村さんの愉快的な顔が目に浮かんできました。

曾於市立深川小 三年 ゆ月さん

どんぐりにひょっこりぞうむし顔を出す

ゾウムシは林や草地などさまざまな場所にすんでいます。落葉にひそんでいたゾウムシがたまたまどんぐりのそばに出てきました。よく観察しています。

中学校の部 特選

一茶まつり大賞

板橋区立上板橋第二中 三年 弥尋さん

田舎の夜蛙飛びこむ星雲に

芭蕉庵の古池に飛び込んだのは芭蕉の蛙。作者の蛙は田舎の田んぼ道から壮大な星雲に飛び込みました。ロマンあふれる斬新な発想です。

東京都知事賞

大阪市立堀江中 三年 健悟さん

泣く赤子月夜があやすつつみこむ

赤ちゃんが泣き止まないのを抱いたまま外に出たのでしょうか。月の光だけでなく、月夜全体が包んだとの表現に赤ちゃんへの愛情が感じられます。

東京都議会議長賞

札幌市立青葉中 三年 菜月さん

掛け声やねぶたの上は月ひとつ

「ラッセラー」の大きな声に乗ってゆっくり動き出したねぶたと空高く様子を見守る月との静と動との対照が印象的です。

足立区長賞

幸田町立北部中 一年 璃旺さん

亡き祖父の最後の写真紅つつじ

アルバムを開いて見つけたのでしょうか。庭先で撮ったのでしょうか。そばの紅つつじがお祖父さんの幸福だった一生を物語っています。

足立区教育委員会賞

足立区立第十二中 三年 佑斗さん

ひっこして初めて見る月朧月

月を見上げるのが好きなのでしょう。柔らかい光を放つ春の月に、これから始まる新しい生活への期待感が滲んでいます。

成田市立公津の杜中 一年 優心さん

画面越し塾も花火も買い物も

コロナウイルス対策のための自粛。学習も観光も生活もさま変わりしました。曇みかけるような表現が悔しさを伝えます。

世田谷区立梅丘中 二年 慎之介さん

夕立に吞まれる羽田離陸する

何か必要があつての旅でしょう。折りからの激しい雨の中の出発。臨場感にあふれています。旅立つ不安感も伴っています。

豊島区立巢鴨北中 二年 遙さん

陽炎がゆらりとおきてあるきだす

実際は人間が歩き出したのですが、陽炎自体が動き出したように表現しました。大胆な発想によって意外性もユーモアも豊かになりました。

立教池袋中 一年 玲さん

溶けてゆく富士山色のかき氷

形も富士山に似ていますが、色に着目しました。青いシロップがかかったかき氷でしょう。「溶けてゆく」がかき氷の質感にぴったりです。

荒川区立諏訪台中 二年 沙月さん

四六時中夕立のよう恋心

一日中夕立が降ったら大洪水になりそうですが、恋心ですから、その心配はなさそうです。ドキドキワクワクハラハラ感が満載です。

練馬区立光が丘第三中 二年 心愛さん

しんとした部屋しんしんと雪の音

真夜中一人留守番でしょうか。「しんしんと」の繰り返しが雪の夜の静けさと孤独感を倍増しています。雪が積もる様子も実感できます。

足立区立第四中学校夜間学級 二年 龍二さん

先生に怒られた夜月が出た

何か失敗でもしたのです。帰宅途中も夕食後も後悔と反省の気持ちでいっぱいでした。ふと仰いだ空に月。癒される思いになりました。

足立区立第十三中 三年 彩夢さん

人の声喧しかろう彼岸花

秋彼岸のお墓参りの一場面です。いつもはひっそり咲いているのですが、今日だけは賑やか。花の気持ちになっている優しさが魅力的です。

修道中 一年 遥陽さん

夏シャツで太鼓がドンと鳴る方へ

祭の太鼓と想像できます。シャワーを浴びて着替えして、さあ出かけようとしたところに、タイミングよく太鼓の音。助詞の「へ」が働いています。

広島市立安西中 三年 広幸さん

夕立と君と私と雨蛙

雨宿りをしている最中と受け取りました。二人で帰る途中でのあいにくの夕立。蛙も顔を出しました。いつまでも心に残る雨宿りです。